

「Count your blessings」

コリントの信徒への手紙Ⅱ 9章6～8節

女子聖学院中学校高等学校チャプレン 前川 あきほ

学校のようなある特定の集団の中にいると、日常生活の中で多くの人を経験する身の回りの些細な出来事があります。それは、その集団ならではの事象であり、いわゆる「あるある」ネタとして、同じコミュニティ内で多くの共感を呼ぶことがあります。では、「女子聖あるある」と言えば、皆さんは何を思い起こすでしょうか。例えば、「運動会の髪型にとっても力を入れる」、「1階から5階まで駆け上った自慢」、「職員室の鍵ボックスの開け方がわからない」、「教室のオルガンカバーが落ちている」、「暖飯器の存在」などがあるかもしれません。今あげた事柄は、内容的にはとても重要なわけではないけれど、確かにあるあるっていう内容ではないでしょうか。

では、次のような「女子聖あるある」も存在するのではないのでしょうか。「試験前になると献金合計額がちよっと高くなる」。というわけで、今朝は献金の話をしたいと思います。

今朝お読みした聖書では、パウロがコリントという町の教会の人々に献金をするように勧めています。そして献金をするときの姿勢についてパウロは、「不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりに」しなさい、と言っています。

私たちの学校にとっての献金を考えてみますと、毎週金曜日のクラス礼拝での恒例行事であると共に、クリスマス礼拝でも行われています。恵一郎先生によると、女子聖において「献金」は、少なくとも半世紀以上前から行われているようで、これまで数多くの団体に届けられてきました。そこで皆さんにお聞きしたいことがあります。どうしてキリスト教、そして女子聖において、「献金」が大切にされていると思いますか。献金は、言ってしまうと、お財布のお掃除ではありません。額が多いから偉いというものでもないし、額が少ないから良くないというものでもありません。また、神道のお賽銭のように、お金を入れたから願い事が叶うかも、という行いではないし、中世カトリック教会がお金を受け取って発行していた贖宥状のように、お金と引き換えに、今までの自分の罪が帳消しになる行いでもありません。さらに、仏教の喜捨のように、自ら進んでお金を貧しい人や僧侶に寄付することとも違います。

では、献金とはなんなのでしょう。一言で言うと、神さまから頂いている日々の恵みへの感謝、です。恵みへのお返しや、お礼、と言っても良いと思います。私たちが誰かからプレゼントをもらう時、私たちは、その人が自分のためにしてくれたことをありがたく思います。自分のためにその人が時間をとって、何が喜ばれるか、もしくは必要かを考えて、そのプレゼントを選んでくれたことに嬉しく感じ、感謝の気持ちを

伝えると思います。神さまからの恵みもそれと似ています。神さまは、私たち一人残らず全員に、その人にとって必要なものをすべて与えてくださっています。それに対して私たちが「ありがとう」と表現する方法の一つが献金である、ということです。誤解しないでほしいのは、この「恵み」ですが、自分から努力したり頑張ったりして神さまのもとに取りに行くものではありません。だから、先ほどのプレゼントの例も、何かを頑張ったご褒美にもらうプレゼントというよりは、誕生日のように、その人の存在そのものを喜んでいるから与えられるもの、と考えるのが適切です。私たちはみな、神さまの子どもです。そして、天の父なる神さまから、一人ひとり異なる、でも、それぞれにとって必要なものを与えられています。

とは言っても、私たちは自分に与えられているものより、人にはあって自分にはないものに目が行きがちです。あの子には、こんなに沢山のもの、または才能があるのに、私はない…と、隣の芝生が青く感じることがあります。そんな時、自分に与えられている恵みを知る助けになるアメリカの讃美歌があります。Count your blessings という曲で、日本語で言うと「恵みを数えよ」という意味です。歌詞の一部を紹介します。

「あなたに与えられた恵みを数えて、神がしてくださったことを見なさい。
主がしてくださったことは、あなたを驚かせるだろう。」

この讃美歌は私たちに、自分にはないものを嘆くより、既にあるものに目を留める大切さを教えてくれます。そしてそれらを与えてくださった神さまに感謝する姿勢に気づかせてくれます。自分に与えられている恵みを一つひとつ数えていく。キリスト教や女子聖で献金を大事にしている理由は、献金が、私たちに注がれている恵みがどれほど多くのものであるかを考え、感謝する機会であるからです。皆さんもぜひ、毎週の献金を通して神さまからの恵みを数えてみてください。たくさんたくさん、あると思います。お祈りします。

天の父なる神さま

私たちは、あるものよりないものに目を向けてしまいがちです。あなたから与えられているたくさんのプレゼントに気づき、その恵みを数えることができますように。また、その恵みを私たちが他の沢山の人たちと分かち合うことができますように。

このお祈りをイエス様のお名前によってお祈りします。

アーメン

2022年9月8日 女子聖学院中学校高等学校 放送礼拝